

最新英和 纖維加工用語集

NEW ENGLISH-JAPANESE GLOSSARY
OF
TEXTILE PROCESSING TERMS

愛知県立起工業高校 教諭

徳永邦雄 著

by Kunio Tokunaga

最新英和 纖維加工用語集

NEW ENGLISH-JAPANESE GLOSSARY OF TEXTILE PROCESSING TERMS

愛知県立起工業高校 教諭

徳永邦雄 著

by Kunio Tokunaga

東京・纖維研究社・神田

SEN-I KENKYUSHA Co., Tokyo, 1971.

著 者 略 歴

- 1932年 宮城県生
- 1956年 山形大学工学部卒業
- 昭和染布(株)勤務を経、1957年尾張繊維試験場技師、1964年愛知県立
起工業高校色染科教諭、現在に至る。
- 現住所 愛知県尾西市開明字東沼 55 番地

最新 英和 繊維加工用語集

昭和 46 年 8 月 20 日 印刷

昭和 46 年 9 月 10 日 発行

改 訂 6500円

送 料 200円

著 者 徳 永 邦 雄

編集兼
発行者 鷲 沢 千 秋

発行所 株式会社 繊維研究社

本 社：東京都千代田区神田紺屋町 6

電話東京 (03) 252-7454 (代)

支局：大阪市住吉区我孫子町 4 の21 電話大阪 (06) 698-5285

印刷：三美印刷(株) 製本：飯塚製本所
(落丁、乱丁本はお取替えいたします)

序 文

繊維加工における技術的進歩向上の背景となるものには、欧米等の工業先進諸国の恩恵を受けた事例がきわめて多いものと考ええる。

現代の繊維業界にとっては、その製品の一般消費量をいかに増大させるかについて研究開発することが必須の条件である。これを克服するには、製品の高級化に目標を置き、より高度の新技術を入手し、常にこれに応用できる心構え、研究に対する熱意が必要である。

このような重要な時期に、繊維加工技術全般におよぶ技術英語、術語等の翻訳書が手もとにあれば、何時でも英文書の解読ができ、諸賢のお仕事研究等の能率が大いに向上するものとする。そこで自らの微力を顧みることもなく、ここに本書、「最新^{英和}繊維加工用語集」の出版を思いついた次第である。

著者自身、外来書の翻訳が特別苦手なため、能率向上の手段として技術用語の集録を開始した。以来既に十数年の歳月が流れた。なんとかして印刷物にできれば便利であると考えた当初は、ポケットサイズのもので、約1万語を目標とした用語集の作成のための作業を進めた。これは印刷目前にして種々の問題が生じた。従ってその後、方針を変え、用語数を豊富にするとともに用語の解説の充実をはかる結果になった。即ち組版の途中で長い期間に亘って、増語、用語解説の補足補充等を行なわざるを得なかった。事情があったため、諸賢に対しご迷惑をかけ、今日に至った点について、第一にお詫びを申し上げねばならない。

本書は繊維加工全般に亘る技術用語の英文和訳書であり、その内容は、繊維材料、高分子化学、紡績、撚糸、機織、織物組織、織物試験、精練漂白、浸染・なせん(捺染)、染色堅ろう度試験、染色薬剤、染色機械、染色理論化学、織物仕上・特殊加工、織物用語、染料・塗料、合成樹脂等の広範囲に亘る技術用語を、アルファベット順に語数15,000以上を集録した用語集である。

本書は繊維関係の会社・工場・研究機関等のお仕事に携わる技術者、研究者、販売・営業・服飾研究担当者等に対し、知識の整理・お仕事上のメモ代り等として活用できるものと信ずる次第である。

また、大学で色染・高分子・繊維工学・染料化学・繊維化学・家政被服学等の関係学科に学ぶ学生諸兄にとっては、英文学術書の翻訳・基礎学力の充実等に大いに役立つ携帯書となることと確信するものである。

本書は学術、技術用語に従うように努力し、できるだけ簡単明瞭に用語を解説した。また、当用漢字・新かなづかいをもって表現するよう努力した。しかしいざ出来上ってみると、意に満たぬ解説等も発見されるようで、かかる場合は諸賢の創意工夫によりこれの補足等をお願いしたい。

特に著者の浅学非才なるが故に、内容が不完全な箇所が見られる場合は、諸賢の御寛容と御叱正等を賜れば幸甚である。将来、この種の英和辞典が出現するために本書が少しでも参考となることを願うものである。

なお、本書の作成に当たり御指導御鞭撻を賜わった下鳥正憲先生、吉田善一郎先生、比企静雄氏、尾張繊維技術センター技師諸兄等に心から敬意を表するとともに、出版の機会を与えてくだされ編集連絡等に御尽力を賜わった（株）繊維研究社社長鷲沢千秋氏、ならびに乱雑な原稿を巧妙に活字化させて載いた三美印刷（株）等に対し厚く御礼を申し上げたい。

昭和 46 年 5 月 20 日

著者 徳永 邦雄

推薦のことば

このたび、英和「繊維加工用語集」が刊行されることを知り、まことに時宜に適したというか、もっと早くこのような参考書が出てほしかったという感がいたします。

1万語を越す専門語を集録された著者のご努力に対し敬服のほかありません。

わが国の繊維工業は、現在、低開発国からは猛烈な追い上げをうけ、先進国市場においては、米国の繊維製品輸入規制問題を筆頭にあらゆるものである。かかる立場におかれた繊維工業は製品の高級化、付加価値の向上以外に活路を見出すことは困難であり、その責任の大半は、染色整理工業の双肩にかかっているといっても過言ではありません。

世界的商品である繊維製品として、新製品の開発努力、新技術の開拓、導入等には一刻の油断も許されないものであり、現状維持は即ち衰退を意味していることを銘記すべきであり、染色整理業界においても、不斷の努力と研究が続けられ、広く世界から新知識の吸収を行なっています。

その時、最初に問題になるのが用語であります。繊維にも染色整理加工にも独特の専門用語があり、しかも年々新しい言葉が生まれています。用語の翻訳、解釈、理解の如何によって、その意味するところに大きな差が出るのが間々あります。かかる不測の失敗を防止し、世界の新技術に伍して発展していくためには、不可欠のものと存じます。

繊維製品に商品価値を与え、付加価値向上の最大の部門を担当する染色整理業界として、徳永氏のご労作により裨益されることは甚大なものがあると存じ、業界の方々に座右に備えられるようご推薦するとともに本書が今後とも新用語を追加改訂されていくことをお願いする次第であります。

昭和46年5月

社団法人 日本染色協会

常務理事 浅見 忠 良

推薦のことば

この程、徳永邦雄氏の多年に亘るご努力が実り、繊維研究社から「繊維加工用語集」が発刊されることを聞き、染料業界に身を置く一員として、まことに喜びに耐えません。

染料は申すまでもなく、繊維加工の場合、最も大切な役割を果たすものがありますが、最近の新繊維の出現と、これに伴う染色方法の改良進歩は、染料メーカーとしてもこの方面の研究を一日も忽にすることを許されず、常に内外の情報、文献には深い関心を寄せるものであります。この場合、従来問題となりましたのが情報、文献に使用される用語の理解に手間どることと、その煩わしさでありまして、今回発刊される「繊維加工用語集」は全く、この問題の解消に役立つことを信じて疑いません。

技術者のみならず、営業マン諸氏も常に本書を座右にそなえられ、研究上にも、実務に当たっても広くこれを活用せられるよう敢えてこれを推奨する次第でございます。

昭和46年5月圭き日。

化成成品工業協会 専務理事 八杉 二郎

推薦のことば

繊維研究社社長鷺沢さんから“繊維加工用語集”発刊について推薦の辞を書くようにと云う要請を受けた。鷺沢さんとは十数年来旧知の間であって、同氏の御人格はよく存じ上げているしその極めて卓越した進取性に対しては、いつも敬服申し上げて来た。

今回の用語集刊行の件は今ではじめて聞かされた話で、いきなり推薦の辞を書けと云われて実は齢なからず面喰った事でもあり、先づ第一に不敏の小生として大変僭越な事と思ったのであるが、一方著者徳永邦雄君は未見の人ではあるが小生とは同窓の士である事を知り、勿論年輩から見ると遙かな後輩ではあるが、そう云う意味で同君とは大変縁の深い事が判った。同君は非常に真面目な士である事も承っているが、正真な所小生は此の用語集については何んにも分っていない。その内容見本数頁を見せられた文けである。が然し序文にもある通り同君が技術用語の集録に取りかかられてから十数年の歳月を費やされたと聞いて同君の、事に当る情熱と努力の程がうかがわれ、内容が極めて充実した良書である事が察知出来るので敢えて推薦の件を御引き受けする事としたのである。

用語の整理、用語の統一、用語の熟知と云う事は非常に大切な事である。特に用語の統一は国際的な重要事である事を痛感している。わが国では繊維加工に関して夙に用語の規格化も行われて来た筈であるが、そう云うものも含めてこう云う基本的な知識を更に広い範囲の関係者に知って貰う事は極めて意味の深い事と考える。

此の用語集が刊行されれば広い範囲の研究者、技術者、その他の関係者に非常な便益を提供される事と信ずる。是非巷湖諸賢坐右の書とされるよう御推薦申し上げたく敢えて拙文を書かせて頂いたゆえんである。

昭和 46 年 5 月

日本界面活性剤工業会 専務理事 千葉 常治

推薦の言葉

徳永邦雄先生著繊維加工用語集（英和）を私はここに文句なしに推薦したい。ほんとうにご苦勞様であったと思う。戦後の日本人の言葉は非常に乱れたという。繊維加工用語についてもそのようなことが感じられてならないからである。誰かがこのような苦勞をしなければならないのではないかと常日頃感じていた一人として、本書の出版を心から喜ぶものである。今日までに、これに似た出版物は皆無ではなかったかも知れない。しかし、本書の特質は単なる和訳ということでもなく、また対応語集でもない。適切な解説を行なっていることである。ここに大きな意義を見出すのである。政治、経済、社会あらゆる面にこの頃は横文字の氾濫である。英語は日本人の心の中に深く浸み込んできている。日本の繊維加工技術の進歩というものが欧米の研究に大いに影響されてきたことは否定できない。翻訳書が続々と出版されることを見てもそれを強く感じる。しかし術語の解釈というものに誤りがあってもならないし、個人個人が適当な解釈をしていてもならない。標準的なものがどうしても欲しかった。その意味で本書は実に重宝なものであって、ある意味では繊維加工辞典としても利用価値のあるものであると思っている。集成に長い年月精魂を傾けられた徳永先生に私は全く敬服する次第であるが、出版を企画された、繊維研究社社長鷺沢千秋氏に対しても深く敬意を表する次第である。若干でも繊維加工に関係するものであれば、この用語集によって、専門書なり欧米の原書がますます興味深く読むことができることと思うし、繊維加工技術への入門必携書としても、又今日までその必要性を痛感し、待望していた人々にとっても欠くことのできない好伴侶の書となり長く愛用されていくことを確信して止まない。繊維加工技術の研究発展の一助として本書がますます活用されることを祈って推薦の言葉といたします。

昭和 46 年 5 月

日本毛整理協会 専務理事 田村 静子^{しづか}

推 薦 の 辞

従来繊維の付加価値を高めるために発展してきた繊維加工技術は、近年における衣料の情報価値の重視、繊維類の産業資材への広範囲の適用などの傾向が増大したために、その内容も益々多様化し且つ高度化している。そして加工技術の発展は繊維産業の繁栄に直接結びつく重要な技術として再認識されつつある。特にわが国の繊維産業界にとって、繊維製品の国内市場における開発途上国との競合、海外市場における先進諸国との競争において優位性をもつために、高水準の加工技術にもとずいた他に見られない高付加価値製品の開発は極めて重要である。

わが国の繊維加工技術は先進諸国と同じ高水準にあり、この技術に関連した専門用語は国際化、共通化の傾向をたどっている。したがって繊維加工並びに加工製品の取扱いにたずさわる人は国際化した用語の内容を正確に把握する必要があり、この意味において本書の刊行は極めて重要な意義を持っている。

また新加工技術の開発にあたっては、加工に関する専門知識以外に、マテリアルサイエンス、材料工学、加工の基礎となる化学と物理、プロセス形成のための工学など広範囲の知見が必要である。本書は加工に関連のある広範囲の科学並びに工学の用語の解説がなされており、これらの用語を通じて専門外の知識を導入することの出来る重要な意義を持っている。

この様な意味において本書がわが国の繊維加工技術の進歩に対し、またその原動力となる繊維を取扱う人の水準を向上するために重要な役割をなすことを期待し、刊行に対し心から推薦するものである。

昭和 46 年 5 月

工業技術院 繊維高分子材料研究所長 工博 鈴木 三男

CONTENTS

A.....AAAS	1
B.....baby combing.....	41
C.....caam	68
D.....dabbing.....	124
E.....ear cap	154
F.....°F	170
G.....gabardine.....	199
H.....habit cloth	211
I.....iatrochemistry	232
J.....J-acid	248
K.....kaai finish	252
L.....label	259
M.....maaseen cylinder	276
N.....Nailon	304
O.....oatmeal effect	318
P.....pacific converter.....	330
Q.....puadrant	372
R.....rabbit hair	375
S.....saccharic acid	400
T.....tab rug.....	466
U.....Ukena's colorimeter	493
V.....vacuum bottle.....	499
W.....wad	509
X.....xanthate	528
Y.....yak	530
Z.....zanella	532

A

AAAS 米国科学振興協会の略称
(*American Association for Advancement of Science*)

AATCC (*American Association of Textile Chemists and Colorists* の略称, AATCC method の項を参照のこと)

AATCC method エーエーティシー法 (米国で1921年に設立された AATCC が規定している試験方法のことをいう。染色堅牢度や繊維製品または薬剤などに関する試験法を造り,あるいは検討する世界的な機関である。これらの試験法とか暫定法などは必要に応じて AATCC の年鑑や *Am. Dye. Repr.* などに発表される。従って我が国においてもこの方法を採用している規格試験がかなり多い)

abaca アバカ (マニラ麻のこと。フィリッピンと呼び名である, パナナの植物によく似ている) = *manila hemp* 参照

abb 織物のヨコ糸 (= *weft*)

aberration 変異, 変態, 収差 (レンズの球面収差, 色収差などの如く影像が歪んだり, 不鮮明な状態などをいう)

ablation 除去, 削磨

abluion 洗浄, 洗い清めること

abnormal 正常でない, 変則的

abnormality 異常な状態

abnormal liquid 変則液体

abrasion 摩滅, 摩擦, 削磨, 摩耗

abrasion test 摩耗試験 (= *wearing test* の一方法。織物の摩耗強度を測定する試験方法で, 摩耗の方法, 試験片の保持の仕方, 摩耗子などによって各種あるが, 一般にエメリーペーパーを使って, 一定張力で緊張させた織物を摩耗して破裂したときの耐久力を比較して評価する)

abrasion tester 摩耗試験機 (摩耗試験 (*abrasion test*) に使用される機械をいう。織物の摩耗試験の

方法としては, やすり面のような金属面で摩擦するショッパー方式, および織物に一定の荷重を与えながら上下2枚の歯状金属板の間を往復させるアムスラー方式やスミス式が一般に用いられる。いずれの方法も摩耗により, 織物に孔があくまでの耐久力を比較するものである。またプラスチックの場合には, 例えば 23.5 回/分で回転する摩擦板上に, 32.5 回/分で試料板を回転させ, その間に摩擦粒子を入れて摩耗したときの摩耗減量を測る方法 (AS T.M 法) などが採用されている) = *rubbing tester* 参照

abrasive 研磨剤 (天然産の金剛砂などが貴用される)

abrasive powder 研磨粉

abrazite 沸石の一種 (成分: $\text{CaAl}_2\text{Si}_4\text{O}_{12}$)

absolute alcohol 無水アルコール (流動性のアルコール独特の特臭ある液体で, 水を含まないエチルアルコールをいう)

absolute strength 絶対強度 (= *specific strength*)

absolute temperature 絶対温度 (絶対零度を考慮に入れた温度)

absolute temperature scale 絶対温度目盛 (熱力学的な計算によって定められた温度目盛法で, -273.16°C において理想気体の体積が理論的に 0 になるという計算上から, この点を 0° として摂氏温度目盛と同じに目盛ったもので, $^\circ\text{K}$ なる記号で表わすことにしている。つまり $t^\circ\text{C}$ の温度を $(t+273.16)^\circ\text{K}$ で表わすことができる)

absolute zero point 絶対零度 (-273°C のことで, これ以上低い温度が存在しないとされる温度。 $^\circ\text{K}$ で表わす)

absorb 吸収する

absorbability 吸収力

absorbance extinction 吸光度

absorbent 吸着剤, 吸収剤, 吸収管

absorbent cotton 脱脂綿 (吸収綿ともいう。おもに衛生材料に用い

られる十分精練、漂白を行なった綿状のモメン繊維で、ベンガル綿などが原綿として使用される)

absorptiometer 吸収計(=densitometer; 試験品が白色光(またはある色の光)の下で吸収する光量を測る器械)

absorption 吸収 (水がアンモニヤを吸う場合のように吸われるものの内部に浸透する場合をいう。これに対して吸われた物質が表面付近にたまる場合を吸着とって区別するが、両者の区別がつかないときは吸着とよぶ)

absorption apparatus 吸収装置

absorption band 吸収帯 (吸収スペクトルにおいて吸収線が密接して並んでいる部分、または吸収線がある波長範囲に亘って連続的に吸収されている部分をいう)

absorption constant 吸収係数

absorption isothermal 吸収等温式

absorption photometry 吸光々度法 (光度計を利用して光吸収の吸光度を測る方法)

absorption pipette 吸収ピペット

absorption pressure 吸収圧

absorption spectrum 吸収スペクトル (白色光線が物体を通過する際、その一部が吸収されて暗黒な部分が生じたスペクトル)

absorption value (油脂の) ヨウド価(=iodine value の項を参照のこと)

absorptive power 吸収力

ABS resin エービーエス樹脂 (アクリロニトリル、ブタジエンおよびスチレンなど 3 成分より成る樹脂のことで、スチロール樹脂の欠点改良の成果ともいわれるもの。成型材料として秀優な性能を有し、特にゴム成分が含まれているため衝撃性が強いなど多くの美点がある)

abstergent 清浄剤 (洗浄剤 detergent 参照)

abstract 抽出=extract

acacia アラビヤゴム (=gun arabic の項参照のこと)

accelerant=accelerating agent

accelerating agent 促染剤 (染着を促進するために使われる助剤、

=accelerator 参照)

acceleration 加速度、促進

accelerator 促染剤 (染料の染着量または染着速度を促進させる助剤をいう。酸性染料染色における辛酸、酢酸、硫酸、またはリン酸など。あるいは直接、硫化、バット、反応染料などによるセルロースの染色におけるボウ硝や食塩がこれに相当する。緩染剤に対する語)

accelerotor アクセレーター (円筒容器の内側に、密着した研磨布を内張りした乾燥時用平坦円筒と平行した山形溝を有する湿潤時用円筒および 3 種の回転翼が付いている。乾燥時や湿潤時の耐摩耗、収縮または耐ビリング性などの試験を短時間で進行うことのできる試験装置である)

acceptor 受容体 (co-ordinated bond の項参照)

accommodation 供給、調節、適応

accommodator 調節器

accomplishment 仕上、遂行

accordion pleats アコーデオンブリーツ (主として婦人用のスカートなどに用いられ、ひだがアコーデオンの蛇腹のように細くなっているブリーツ製品をいう。一般にブリーツ用の型紙を使ってパーマネントセット加工して作られる。合繊は熱可塑性を利用することにより容易にブリーツ状にヒートセットできるが、毛製品ではセット剤を用いて蒸熱セッチングを行なわねばならない)

accumulator 蓄電池、蓄力機、貯圧機

accuracy 正確、正確度

Acelba (スイス, Soc. de la Visc. Suisse 社製、後酢化スフ繊維の商品名)

Acele (米国, Du Pont 社製酢酸セルロース繊維の商品名)

Aceta (ドイツ, I.G. 社のアセテート人絹の商品名)

acetal アセタール ($\text{CH}_3\text{CH}(\text{O}_2\text{C}_2\text{H}_5)_2$ 、アセトアルデヒド水合物のエーテルと考えられる無色の液体で溶剤としての用途がある。bp. 103°C)

acetaldehyde アセトアルデヒド

Acetato (スペイン, *Ind. del Acet. de Cellul.* 社製の酢酸繊維素入絹の商品名)

acetene アセチン (エチレン (*ethylene*) のことをいう。 $\text{CH}_2=\text{CH}_2$)

acetic acid 酢酸 (CH_3COOH ; アルコールの酢酸塩酢, 木材の乾留などによって得られるが, 工業的にはアセチレンから合成する。酸味と揮発性を有する, 刺激臭ある有機酸の一種で, 99% 以上の純度のものを水酢酸という。アルコール, エーテル, 水などによく溶け, 水溶液は弱酸性をしめすため, 酸性ミリング染料やクロム染料などの促染剤として, その他染色助剤として多くの用途がある。 m. p. 約 17°C , b. p. 118°C)

acetic acid bacteria 酢酸菌 (有機物を酸化して酢酸に変える細菌をいう)

acetic (acid) fermentation 酢酸醗酵

acetic anhydride 無水酢酸 ($\text{CH}_3\text{CO}-\text{O}-\text{COCH}_3$ 。なる構造式で表わされ, 酢酸脱水物と考えられる刺激臭ある無色の液体, b. p. 139°C , 水と作用して容易に酢酸となる性質がある)

acetic ester 酢酸エステル ($\text{CH}_3\text{CO O C}_2\text{H}_5$)

acetic ether 酢酸エーテル ($\text{CH}_3\text{CO O C}_2\text{H}_5$; 酢酸エチルの別名で, 芳香を有する無色液体, b. p. 77°C , アセト酢酸エステル製造原料)

acetification 酢酸化

acetimeter 酢酸比重計

acetimetry 酢酸滴定

aceticin アセチン ($\text{C}_2\text{H}_5(\text{OH})_{n-1}(\text{O COCH}_3)_n$, グリセリンを酢酸でエステル化して作られる無色無臭の粘稠な液体で, 市販品はトリアセチン ($\text{C}_2\text{H}_5(\text{OCOCH}_3)_3$) を主体とし, ジアセチン ($\text{C}_2\text{H}_5\text{OH}(\text{OCOCH}_3)_2$), モノアセチン ($\text{C}_2\text{H}_5(\text{OH})_2(\text{O COCH}_3)$) およびグリセリン, 水などが混入しており酢酸臭がある。水に溶けにくく, 常温で約 6% 溶解するにすぎない。蒸熱により酢酸とグリセリンとに分解する。塩基性染料やクロム染料などの溶解剤としてナセノリに混合して使用される。水に常温で約 6% 溶解する。 BP 250~

260°C)

acetoacetate アセト酢酸塩 ($\text{CH}_3\text{COCH}_2\text{COOM}$ で表わされる化合物)

acetoacetic acid アセト酢酸 ($\text{CH}_3\text{COCH}_2\text{COOH}$, ケトン基を含むカルボン酸の一種。ケトカルボン酸ともいう)

acetoacetic ester アセト酢酸エステル ($\text{CH}_3\text{COCH}_2\text{COOC}_2\text{H}_5$, 芳香を有する液体, b. p. 181°C , 反応し易い性質があり, 有機合成化学上, ピラゾロン系化合物合成の重要原料となる)

acetylolysis アセトリシス (無水酢酸を使ってエーテル結合を開裂させ, 酢酸エステルを作る反応をいう。酢化分解ともいわれる)

acetometer 酢酸比重計

acetometry 酢酸定量

acetone アセトン (CH_3COCH_3 , 無色の液体, b. p. 56.3°C , アセチレンから合成するか, でんぶんをアセトン醗酵して作る, または酢酸カルシウムを乾溜するなどして作られる。アセテート繊維製造上, 樹脂または油脂やセルロイドなどの良好な溶剤として使われる)

acetone-alcohol アセトンアルコール ($\text{CH}_3\text{CO}\cdot\text{CH}_2\text{OH}$)

acetone body アセトン体 (生体内の脂肪, たんぱく質が酸化されて生成される酸を総称していう)

acetone formaldehyde resin finishing agent アセトンホルムアルデヒド樹脂加工剤 (クロルリテンションのない特徴ある綿の防縮加工用樹脂の一種。2~4 メチロールアセトンを主体とする加工剤で, アセトンにホルムアルデヒドをアルカリ触媒で反応させて作る)

acetone oil アセトン油 (粗製アセトンのことで, アセトンのほかにメチル・エチル・ケトン ($\text{CH}_3\cdot\text{CO}\cdot\text{C}_2\text{H}_5$) などを含む。溶剤として用いられる)

acetonitrile アセトニトリル (CH_3CN , ジメチル硫酸に KCN を作用して作られる液体)

acetophenone アセトフェノン ($\text{C}_6\text{H}_5\text{COCH}_3$, ベンゼンに塩化アルミニウムの存在下で塩化アセチルを

作用させて作る(フリーデルクラフツ反応)。芳香ある液体で香料として用いられる)

acetous 酢酸の、酸い(=*sour*)

acetum 酢(ス)(家庭用のものは酢酸が6%ぐらい含まれている)

acetyl アセチル基($\text{CH}_3\text{CO}-$)

acetyl acid value (*acetyl number* = *acetyl value*)

acetylated rayon staple 酢化スフ(ビスコース法によって作られたスフを無水酢酸で処理し酢化したものをいう。酢酸の含有率を50%以上にする、性能がアセテートと余り変わらないようになる。繊維状としたものを酢化するのを、繊維状酢化ともいう。日本のアロン(東邦レ)がこれに該当する)

acetylation アセチル化(物質中にアセチル基($\text{CH}_3\text{CO}-$)を結合導入させることをいう。酢酸化ともいう。工業的にはコットンリントーを酢化してアセテート繊維を作るような場合にこの反応が応用される)

acetylcellulose アセチル・セルロース(*acetate fibre*の項参照)

acetyl-chloride 塩化アセチル(CH_3COCl , 酢酸に塩化リンを作用させるなどして作られる液体(bp 55°C)で、刺激臭を有し、水とはげしく反応して塩化水素と酢酸を生じる。アセチル化剤として重要である)

acetylene アセチレン($\text{HC}\equiv\text{CH}$, 無色の気体にして三重結合を有するため付加反応を起こし易く、有機合成化学工業の重要原料である)

acetylene black アセチレン・ブラック(アセチレンを不完全燃焼して作られる煤で顔料や填料などに用いられる)

acetylene bond アセチレン結合(一般に炭素原子間の三重結合を総称していう)=*triple bond* 参照

acetylene series アセチレン類($\text{C}_n\text{H}_{2n-2}$ で表わされる一連の不飽和炭化水素の総称)

acetylde アセチライド(アセチレン中の水素原子は金属と容易に置換されて $\text{HC}\equiv\text{CM}$, $\text{MC}\equiv\text{CM}$ などの金属化合物が得られる。このような化合物の総称。M: 金属)

acetylation = *acetylation*

acetyl value アセチル価(油脂に含まれる水酸基($-\text{OH}$)の量を測定する方法である。アセチル化した油脂 1g をケン化して生じた酢酸を、中和するに要するかせいカリのmg 数で表わすことになっている。この値は油脂の新鮮なものの程小さく、反対に古いものの程大きい数値になる)

achievement 達成、評価(試験結果などの)

achrodertrin コ精の加水分解物

achromatic colours 無彩色(白、黒、灰色など明度のみ存在する色。有彩色に対する語)

achromatic lens 色消しレンズ(2つの色光について色収差を除いたレンズ)

achromatic substage (顕微鏡などの色差を除く装置をいう)

achromatise = *achromatize* 色消し(色合わせの際にある色目を消して目立たなくすること、またはレンズやプリズムの色収差をとり除くことをいう)

aci アシ(化合物が酸のような作用をすることの意の接頭語)

acid 酸(狭義では水溶液中で H^+ を生じ、塩基を中和して塩を生成する物質をいう。陽子説によると、酸とはプロトン供与体であるとして、 $\text{酸} = \text{H}^+ + \text{塩基}$ なる関係にあると定義づけている)

acid ageing 酸性蒸熱法(ラピッドゲン染料やラピッドファスト染料などのナセンにおいて発色を良くするために酢酸やギ酸を含む酸液を蒸気噴射孔からスプレーして蒸熱を行なう方法をいう)

acid ager アシッド・エージャ(*acid ageing* (この項参照のこと)のために使用される小型のローラ型エージャをいう。酸エージャともいう。酸蒸気は金属を腐蝕し易いため、木製、プラスチック、特殊ステンレス鋼、フッ化ゴム塗装などが、材料として使われる)

acid amide 酸アミド($\text{R}\cdot\text{CONH}_2$ で表わされる物質の総称、酸塩化物にアンモニアを作用して作られる)

acid anhydride 酸無水物(2個のカル

ルポキシル基から水1分子を除去して得られる原子団 $(-\text{CO}-\text{O})$ を有する化合物,例えば無水酢酸のごときもので,水を用いさえればカルポキシル基が再び得られる)

acidation 酸性化

acid azo dye 酸性アゾ染料(アゾ基を含む酸性染料のことで一般にモノアゾ型およびジアゾ型が多い)

acid dye の項参照)

acid-base indicator 中和指示薬(中和滴定用指示薬の意で,これにはメチルオレンジ,メチルレッドあるいはフェノールフタレインなど多くのものが規格化されている)

acid bath 酸浴(羊毛の化炭における浸セキ浴または酸通しなどに使われる酸を含む浴のことをいう。羊毛やぼろの化炭処理には $3.5\sim 7^\circ\text{Be}$ の稀硫酸浴を使用する)

acid carbonate 酸性炭酸塩(例えば NaHCO_3 などが代表的存在である)

acid catalyst 酸性触媒(酸触媒ともいい,酸塩基触媒反応には水素イオンにより促進される反応が多いが,極弱な塩基が関与する反応には強酸が触媒に用いられる。例えばアルキル化,異性化などの反応には硫酸,リン酸,有機スルホン酸などが用いられる。catalyst 参照)

acid chloride 酸塩化物(RCOCl なる一般式で表わされる化合物の総称。有機合成化学の試薬として用いられる)

acid chlorination 酸性クロリネーション(次亜塩素酸ソーダ溶液を用いる湿式のクロリネーション法をいう。ガスクロリネーションに対していわれる防縮加工法の一。下式に示すように酸と NaOCl とが作用して塩素ガスまたは発生期の酸素を発生してこれらによりクロリネーションが行なわれる。 $2\text{NaOCl} + \text{H}_2\text{SO}_4 \rightarrow \text{Cl}_2 + \frac{1}{2}\text{O}_2$)

acid chrome dye 酸性媒染染料(=acid mordant dye の項参照)

acid colloid method 酸コロイド法(アミノ系樹脂,例えば尿素樹脂などの初期縮合物水溶液に酸を加えてカチオン性のコロイド溶液状

として樹脂加工する方法である。水中においてアニオン性の繊維に吸着される性質を応用するものである。毛織物防縮加工法としてのLanaset法がこれに当たる)

acid color 酸性染料 (=acid dye 参照)

acid dyeing metal-complex dye

酸性金属錯塩染料(1:1型金属錯塩染料ともいわれる染料。染料1分子に対し金属1原子が結合した構造を有し,羊毛をはじめナイロン,アクリルタイプのアクリル繊維などの染色に使用される。多量の硫酸を必要とするため繊維の損傷が問題となるが,均染性と堅牢度に優れ,かつ1:2型含金属染料に比べて比較的鮮明色を得ることができるなどの利点がある。冠称にはネオラン(Ciba),パラチンファスト(BASF),ネオファスト(山田),オパール(保土谷)などがある)

acid dyes 酸性染料(羊毛や絹およびナイロンなどを酸性浴から直接,染色することができるとする水溶性染料で,セルロース繊維には染まらない。染料構造は $\text{D}-\text{SO}_3\text{Na}$, or $\text{D}-\text{COONa}$ なる一般式で表わすことができる。水に溶けて色素アニオンとなるが,一般に直接染料よりも染料粒子が小さく,コロイド性も少ない。鮮明色に染色できるが,特に縮充,湿潤堅牢度が弱い。アゾ系の染料が多いためハイドロサルファイトで脱色できるが,アントラキノン系やトリフェニルメタン系のものは一時的に還元されて無色になるものの,酸化により再び復色するため脱色が困難である。また染料の水溶性の程度によって均染性型およびミリング型(分子集合するもの)とに分けられる。前者は比較的pHを下げて染めねばならないし,一般に湿潤堅牢度が低い欠点があるが,分子状に溶解されて染めるので均染性が良好である。これに対して後者は中性乃至弱酸性浴から羊毛にかなり染着される性質がある。湿潤堅牢度が高いが,染めむらになりやすい欠点があるため確安の如き緩染剤を必要とする。後者の中には性能のみ酸性ミリング型であ